

ニューズレター雪氷北信越

No. 9 平成元年9月16日

日本雪氷学会北信越支部発行

目次

理事・幹事合同会議報告／講演会・見学会・学習会報告／共催講演会案内／
学習会案内／雪氷北信越4号の投稿文・広告の募集

理事幹事会

平成元年度第2回理事・幹事合同会議報告

平成元年9月9日(土)13時より、長岡技術科学大学建設系会議室において、本年度第2回理事・幹事合同会議が開催された。

まず、シアトルで開かれた8月末のIGS(国際雪氷学会)理事会において、1992年長岡IGSシンポジウムの開催が正式に決定したことが報告された。これは長岡市からの招請に基づくもので、長岡産業交流会館(仮称)にて1992年9月14日～9月19日の日程で開催される。本支部としては中村支部長を中心に、会議の成功へ向けて全面的に協力していくことが確認された。また、平成2年度日本雪氷学会全国大会十日町市開催(10/14～10/18、於：クロス10)が、9月8日の本部常任理事会において決定されたことが報告され、本支部では、実行委員会を組織して対応することとなった。いずれも大事業であり、関係各位の御協力をお願いしたい旨、支部長より挨拶があった。

続いて各種事業に関して、7～9月上旬に開催された新潟地区講演会、富山・石川地区見学会、富山地区学習会の報告があり、さらに福井学習会、共催講演会等の予定が紹介された(本誌別項参照)。『屋根雪処理』技術部会(代表：梅村副支部長)については現在5社から参加希望があることが報告された。また、石坂幹事から1990年夏に富山市文化センターにおいて『極地展』を開催する予定であることが報告された。

講演会

新潟地区講演会報告

新潟地区講演会が下記の通り開催された。構造力学の立場から屋根上の雪荷重の研究に携わってこられた講師のサック教授は、まず屋根雪荷重の取扱についてアメリカやカナダの事例を紹介された。さらに野外での雪のコアの強度に関する調査、野外模型実験におけるデータ収集法、人工雪の作成による室内実験等についてスライドを用いて詳しく説明され、また、雪荷重の確率的取扱に関する説明もあった。東北大学工学部三橋助教授や長岡技術科学大学早川教授の通訳により活発な討議が続けられ、昨年度のアナケートで指摘された屋根雪に対する要望に応える、示唆に富んだ講演会となった。なお、講演終了後、サック教授御夫妻を囲んでなごやかな懇親会が開かれた。

講師：ローナルド・サック教授（オクラホマ大学土木・環境科学科長）

テーマ：屋根雪荷重の問題点について

日時：1989年7月24日（月）

場所：新潟県教職員互助会館『けさじろ荘』 参加：36名

なお、サック教授が開催委員長を務められた、第1回雪工学国際シンポジウム（1988年米国カリフォルニア州サンタ・バーバラ）の論文集が出来上がりました（雪氷50巻4号シンポジウム報告参照）。希望者は下記に申し込まれると送ってくれるそうです。

論文集名：

Proceeding on First International Conference on Snow Engineering

申し込み先：

CRREL-TC,

72 Lyme Road, Hanover, New Hampshire 03755-1290 USA.

見学会

富山・石川地区見学会報告

雪水の親分となる水の最も重要な運び役を演じている河川の現地見学を2日間にわたって、建設省北陸地方建設局富山工事事務所の懇切御丁寧な御説明と御案内で、大変楽しく有意義に実施することができました。

日時：平成元年8月7日（月）および8日（火）。

場所：神通川および常願寺川（初日）、庄川および小矢部川（2日目）

テーマ：実際河川における河川施設および水の流れについての見学

参加者：19名（初日）、11名（2日目）

9月6日富山大学理学部において、第4回富山地区学習会が行われた。講師の日本気象協会富山支部舟田久之氏から「降雪予測」についてプリント資料を用いて詳細な説明がありました。降雪の機構の話のあと、降雪量の短期予測式の導き方について説明があり、気象庁の発表する数値予報から秋田、輪島、米子、日本海中部の500mb、850mbの気温、高度、渦度、安定度など21項目を読み取って組み立てられた富山県内15地点の降雪量予測式、ならびに山雪、里雪についての48時間降雪量予測式が示された。予測式は統計的な手法によって導かれたものであるがその物理的解釈について質問が集中した。激しい雨の降る悪天候にもかかわらず長岡からの参加者を含めを会員、非会員あわせて20名の参加があり、降雪量予測の真髄に迫る話に深い感動を受けた。

(対馬理事 記)

地球環境問題における 雪氷コア研究の役割

講 師：チェスター・ラングウェイ教授（ニューヨーク州立大学主任教授）

日 時：1989年 9月29日（金） 15:00～17:00

（終了後講師を囲んで懇親会を開催します。会費：3000円）

場 所：新潟県教職員互助会館『けさじろ荘』

長岡市今朝白1-10-275 TEL(0258)33-7400

問合先：防災センター長岡雪氷防災実験研究所 中尾正義 TEL(0258)35-7522

二年続きの暖冬の後、今度こそ大雪が来て呉れるかという期待溢れる話題が出始める季節になりました。日本海側の豪雪／寡雪の問題は、最近、新聞やテレビを賑わしている「炭酸ガスの増加による地球温暖化」や「フロンガスによるオゾン層の破壊」などに代表される、いわゆる「地球環境問題」のひとつです。この問題に、雪氷コアという立場から長年携わってこられたラングウェイ教授は、この方面では世界的権威です。大物教授が長岡を訪問される機会に、このホットな話題を直接聞ける場として、長岡雪氷防災実験研究所と共催で講演会を開催します。奮って御参加ください。

学習会

福井地区第1回学習会のお知らせ

時節がらますますご清栄のことと存じます。

日本雪氷学会は雪氷問題およびその対策技術等についての発展をめざして活動を行なっているものですが、このほど雪氷問題についてより多くの方々との交流と地域に密着した研究の推進をはかるため、下記のような学習会を催すこととなりましたので、よろしく趣旨ご理解のうえ参加下さいますようお願いいたします。

記

と き 1989年9月30日(土) 13時～16時30

ところ 福井市城東1丁目18-21

福井県立図書館会議室 ☎24-5167

- 内 容
- 1 アメリカの雪荷重の考え方について
福井工業大学 前田博司
 - 2 放熱管融雪における舗装体内の熱流について
福井県雪対策技術センター
杉森正義
 - 3 無散水融雪システムについて(含む現場見学)
福井県雪対策技術センター
宮本重信

なお、出席については9月22日迄に下記あてお知らせ下さい。
参加費は無料です。

連絡先 福井市春日3丁目303
福井県雪対策技術センター 杉森正義
☎ 35-2412

機関誌

『雪氷北信越4号』発行のお知らせと自由投稿文・広告の募集

北信越支部編集委員会(早川委員長)では、平成元年12月下旬に『雪氷北信越4号』の発行を予定しております。つきましては、下記の通り、随筆・評論的な自由投稿文を募集致しますので、奮って御投稿下さい。また、同誌に掲載する広告を募集致します。『雪氷北信越3号』57頁を御参照の上、ご連絡下さい。

記

1. 締切 : 平成元年12月2日(土) 必着
2. 字数 : 3000字程度(用紙は自由)
3. 送付先・問い合わせ先: 〒940-21 長岡市上富岡町1603-1
長岡技術科学大学建設系 小池俊雄(0258-46-6000, 内線6124)